

8-4

摂食機能障害について考える

舌突出による食事の摂り込み障害があるケース

多職種協働

自己実現への寄与

特別養護老人ホーム アトリエ村

主任管理栄養士 高橋 樹世（たかはし みきよ）	ケアマネージャー 小島 信彦
東京都豊島区长崎4-23-1	
TEL： 03-5965-3400	E-mail： atorie@toshimaj.or.jp
FAX： 03-5965-3403	URL： www.toshimaj.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	豊島区社会福祉事業団・アトリエ村は平成6年4月に80床の特養とデイサービス を開設、その後は、在宅支援センター、地域包括支援センターも併設された高齢者 複合施設です。「真心と思いやりの花咲くアトリエに」がキャッチフレーズです。
----------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <p>舌肥大および舌突出により経口維持が困難と思われる利用者に対して、施設本位ではなくご家族の意向に沿ったケアの提供を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 食事内容の工夫2. 食事介助方法の工夫3. 全職員によるケアの周知徹底4. 職員の意識向上5. 目標達成（経口維持）に向けての取組み <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ol style="list-style-type: none">1. 多職種協働による栄養ケア・マネジメントの流れの確立2. 過去の利用者の状況及び当時のケアの把握3. 各専門職からの知識・情報提供と連携4. ケアプランに沿ったケアの提供の周知徹底5. 医療との連携6. 定期的な分析と評価・検討7. 職員による統一したケアの実施	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">○一部門（一職種）のみで問題を抱え込まずに、各専門職が知恵を出し合い、その相乗効果によって課題を克服するという多職種協働の理念を実際に経験したことで、職員の一体感が生まれた○適切なタイミングで、医療機関による評価や助言を求めることによって、施設における自分達の取り組みを客観的に再評価することができた○施設における食事（栄養管理）が、一律的な給食や生命維持の為ではなく、利用者のQOLの維持・向上と密接に関係しているという認識が、本研究を通して職員間に浸透した○ケア開始後、2年が経過する現在も、経口摂取が可能な状態である○ご家族からは感謝の言葉を頂くことができた <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○その時々利用者の状況を適切に判断していくことで、QOLの維持・向上をはかる○本来の意味の「摂食機能障害」とは、嚥下障害のみではなく摂り込み障害も含まれていると考えられる。今後も、広義の摂食機能障害に対するケアの充実をしていく必要がある
---	---

【メモ欄】